

私が生まれ育った佐渡は少子高齢化が急速に進み、十年後には65歳以上が人口のおよそ45%になると予想される。出生数は年間2百人しかない。私は、故郷に響くうぶごえを絶やさないため、出産の新たな取り組みを創り、少子化問題の一役を担いたい。

佐渡には産婦人科が1つしかない。医師不足と分娩数の減少により閉鎖された施設もある。減少が続けば、佐渡から産婦人科はなくなってしまうのではないかと。なくなれば、佐渡で子供も産み育てられなくなる。子供のいない地に活性化はあり得ない。未来を見据えることが出来る地域にするため、佐渡で生まれる子供を守り、産婦人科を守る必要がある。

佐渡の産婦人科を守るために、まず医師の確保が重要だ。産婦人科に限らず、佐渡は常勤の医師が少なく、曜日ごとには新潟から通う医師も多い。悪天候で船が欠航になり、診察が中止される場合もしばしばある。常勤の医師を増やすには、行政と連携して佐渡で働く

×リットを創らなければならぬと考える。

また、佐渡は出産に適した土地だと思う。

空気がとても綺麗で、療養の地に選ぶ人もいる。加えて食も豊かで、美味しく栄養高い産物を摂れる。例えば、魚や牡蠣などのたんぱく質や鉄分の豊富な海産物、食物繊維が多く含まれる玄米などがある。そして、多くの伝統文化があることも魅力の1つだ。お腹の中にいるときから文化に触れることで、感性豊かな子育てに繋がる。実際に私は生まれる前から伝統芸能の鬼太鼓の音を聞くと必ず動きだしたと母から聞いた。私が音楽やダンスが好きなのはこの影響もあると考える。このよ

うな利点を地元の人にはもちろん、佐渡に縁のない人にも知ってもらい、佐渡での出産を新たな魅力として広めていきたい。

更に、宿泊施設と病院が連携し、里帰り出産やIター→出産を受け入れるサービスを創りたい。個室や食事がホテルのような産婦人科があるということを知り、佐渡に新たに施

設を造るのは難しくても、今ある宿泊施設を
活用して過ごしやすい環境を提供することは
出来ると考える。出産は、家族にとって一生
の思い出となる。私はその貴重な瞬間を佐渡
で過ごしてもらい、子供が生まれる幸せを家
族で味わえるような環境をこの佐渡に創りた
い。

私は2030年の佐渡に、今より多くのう
ぶごえを響かせたい。第一に安心安全の出産
体制の確立、そして里帰り出産、Iターン出
産に向けた新たなサービスを創り、佐渡の産
婦人科と佐渡で生まれる子供たちを守りたい。
出産により佐渡に縁がある人や家族が増え、
縁によって人の繋がりが広がることは、間違
いなく佐渡の活性化となる。そして出生地が
佐渡の子供たちは、大人になり佐渡に興味を
示す。家族の思い出の地ともなる。それは佐
渡の価値向上となるはずだ。私は未来の佐渡
を、たくさんの人々の縁で繋がる、価値の高い、
活気のある島にしていきたい。

参考文献：佐渡市医療介護連携推進検討会「佐渡市医療構想」

https://www.city.sado.niigata.jp/admin/council/k_hp_translate_2016/outline/app_07.pdf 閲覧日：2020年6月10日

佐渡市「第2期 佐渡市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）」

http://www.city.sado.niigata.jp/topics/p_comm/2019/01/01.pdf 閲覧日：2020年6月10日

佐渡市 ホームページ

www.city.sado.niigata.jp 閲覧日：2020年6月10日